

異文化理解研修（ロシア）参加者レポート 2014

総合政策学部 3年 齋藤百合亜

私は今回、異文化理解研修において、ロシアの教区等にあるウラジオストクに短期留学をしました。現地で生活し、言葉が通じる楽しさ、語学を学ぶ楽しさを改めて痛感した1か月を過ごすことが出来ました。

研修中の授業はというと、とても大変でした。授業は会話、文法と午前中に2コマ（4時間）行われ、終始すべてロシア語でした。最初の一週間はなかなか言葉を聞き取り、きちんと理解することが出来ず、とても苦労しました。ロシア語で使用されるキリル文字は英語と形は似ていますが、発音も読み方も全く異なります、日本語では普段発音しないアルファベットも存在します。男性・女性・中性といった名詞の種類や、時制による動詞の変化、名詞による動詞の変化があり、すべてを使い分けなくてははいけません。またロシア語には多くの決まりごとがあり、とても複雑です。そのため、会話文や文法を1センテンスを考えるだけで、頭の中はいっぱいの状態でした。しかし、同時に毎日の授業はとても新鮮に感じる事が出来ました。授業終わりには多くの課題が出され、翌日には確認の口頭テストが行われました。そのため、毎日予習復習をし、単語を覚え、徐々に増えていくボキャブラリーに嬉しさを感じました。当初は、レストランやカフェにいても言葉の壁を感じ、積極的に話しかけ質問したりすることが出来ませんでした。ボキャブラリーが増え、聞き取りも慣れていくごとに、「間違えてもいいから、気になることがあったら恥ずかしくなく聞いてみよう」という気持ちに変わり、街中での生活が大きく自信へと繋がっていきました。そのため、1か月という短い期間の中でロシアの文化や人間性についても多く触れることができました。大学の授業で得た知識は、その当日に活かされ、全く分からなかった言語を聞き取り、会話をするレベルまで引き上げられ、毎日が本当に学んでいるという実感が出来ました。

第二言語である英語は、中学校から勉強し、日本で生活していても街中で見かけるお菓子などの輸入品や観光地の案内書きなど様々な場面でふれてきました。しかし、第三言語であるロシア語は、日本の街中ではあまり見かける機会がありません。そのため、ロシア語などの第三言語は自ら学ぶ機会を作らなくては、深める機会がなく、学ぶ機会がなかなか無いのではないかと思います。私はこの異文化理解研修を終えることによって、大学におけるロシア語の講義の全過程を習得し終えました。上記でもあげたように、第三言語は自ら学ぶ機会を作らなくては、深める機会はそうないのではないかと思います。私はこの異文化理解研修を通して、第三言語を学ぶ楽しさにも気づかされました。大学での講義は習得し終えてしまいましたが、これからも自分で学ぶ機会を作り、さらに勉強していきたいと思いました。

日本に帰国して乗ったある電車の広告で「通じて嬉しかったのは自分？それとも相手？」といったフレーズを見かけました・私はこの問いに対して、自分なりの回答があり

ます。もし、異文化での生活に興味がある、又、新しい語学習得を考えている学生がいる場合は、ぜひこういった機械を利用し、異なる文化に触れてみてほしいと思います、海外に行き、母国語以外の言語をメインで使用し生活する時間は、見たこともない事や知らない事ばかりで、充実したものになることでしょう。

最後になりますが、熱心にご指導してくださったロシア海洋大学の先生方、渡航から帰国するまでの期間、色々な面でサポートをしてくださった職員の皆さんや両親に感謝をしたいと思います。

■参加者インタビュー

Q. 研修開始前や開始直後の印象は？

A. 異文化理解研修については、先輩方が皆口々に「楽しかった」「行っただけで全く話せない」と言っているのを聞いて、主に海外に1か月間遊びに行くというような色が濃い研修なのかと思っていましたが、今回の自分たちの研修は違っていました。

Q. 研修内容はどのようなものでしたか？

A. 海洋大のロシア語レッスンは、ロシア語でロシア語を教えるシステムとなっており、少人数制で課題や授業内での発音が求められるため。自然と身についていく感じがありました。もちろん、この授業ですべてが理解できたわけではありませんが、後から県大で使っているロシア語のテキストを見直した際に、あのとき先生はこのことを言っていたのかと思う点がいくつもありました。授業の成果は、自分としてはとてもあったと思います。この1か月間で日常生活に不自由のないくらいにロシア語を操れるようになったというわけではなく、そうなるための基本的な語彙が増えるなどロシア語学習の土台を築けたからです。今回の研修は、今後のロシア語学習で大いに役に立つと思います。ロシア語を勉強するには独学や学校の授業だけではなく、このような研修プログラムに参加する必要があると思いました。私はこの研修を糧に、ロシア語学習を今後も継続し、来年にはロシア語能力検定2級を取得しようと思っています。

Q. 研修中、印象的なことはありましたか？

A. 異文化理解とは、自分の常識が全く通用しない環境に身を置いて初めて可能となるものであると思います。私が最初に感じた不自由は「言葉」でした。私たちに話しかけてきてくれるロシアの人も何人かいましたが、どうしてもロシア語をすらすら話せないし発音も悪かったので、結局意思疎通できずに終わってしまいました。本当に悔しかった。ロシア語が話せればどんなに良いだろうと研修期間中、何度も思いました。

Q. 研修を終えての感想を教えてください。

A. この研修の異議は参加後にどれだけ学習を継続し、能力を付けていくかだと思います。

す。もちろん、参加前からある程度話せるに越したことはないし、それがベストではあると思いますが、まったくわからないまま参加した者にとっても、参加後に「よし、これから頑張ろう」という熱意を沸かせる効果がこの研修にはあると思います。

研修中に苦勞すればするほど、熱意は大きくなると思います。「楽しかった、でも話せない」で終わってしまうほどもったいないことはないと思うので、今後もロシア語学習を継続していこうと思います。

観光旅行の場合は、よほどのことがない限り「楽しかった」で終わると思います。しかし、「留学」として1か月も滞在していれば苦勞も多いことがわかりました。ですが、それでこそ意味があると思います。もちろん、観光旅行も楽しいので、異文化に触れるという点ではとても良いことだと思いますが、自分は一度短期でも、海外旅行をすることをお勧めします。

■研修の様子

